

氏名(本籍)	なかのつよし	中野毅(東京都)
学位の種類	博士(文学)	
学位記番号	博乙第1707号	
学位授与年月日	平成13年3月23日	
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当	
審査研究科	哲学・思想研究科	
学位論文題目	戦後日本国家と民衆宗教の政治参加 —宗教学的—考察—	
主査	筑波大学教授	Ph. D. 荒木美智雄
副査	筑波大学教授	博士(文学) 棚次正和
副査	筑波大学教授	法学博士 進藤榮一
副査	桜美林大学教授	B. D. 井門富二夫

論文の内容の要旨

本論文は、日本における国家と宗教、政治と宗教の関係と動態という学問的課題が、単に法律学的もしくは政治学的視点においてのみ取り扱われるべきテーマではなく、相異なる「宗教的世界」の間の相克という、宗教学的諸側面が深く関わった課題であることを、第二次世界大戦直後の占領軍による「宗教政策」と戦後日本の国家の問題や民衆宗教の政治参加の問題を取り上げることによって、明らかにしようとするものである。論文は序章とそれに続く二部から構成されており、序章で目的、対象、方法を明らかにした上で、本論で第一部と第二部の議論を展開し、終章で全体を再把握して、将来の学問的課題の提示によって結んでいる。

序章では、まず、1945年の敗戦と連合国占領軍によってもたらされた日本社会変革を「国家と宗教の関係」に関わる事項に絞って、占領軍による軍政に主導的役割を果たしたアメリカ合衆国の意図にそって検討し、どのような変化をもたらされたか、さらには、それによってもたらされた公式の枠組みの中で、民衆宗教がどのような意図をもって政治に参加していったか、そこにはどのような宗教的意味があったかという課題を提出している。問題は、占領軍の意図した「公式の」日本社会と、日本の民衆の「非公式の宗教的世界」との間にはさまざまな「ずれ」があったということである。このような問題を明らかにするために、著者は、先行研究の批判的吟味を行ったうえで、一方でフッサールの現象学の影響下にあったアルフレッド・シュッツの現象学的社会学やピーター・バーガーの宗教社会学に学びつつ、他方、ヨアヒム・ワッハの統合的宗教学やミルチア・エリアーデの形態学的宗教学に学んで、「多元的宗教的世界」を把握するという本論文の課題のために方法論的基礎付けを行っている。

「第一部 占領宗教改革と戦後日本国家」では、まず「第一章 アメリカ合衆国の対日宗教政策」において、戦後の日本占領改革の原型となったルーズヴェルト大統領のヴィジョンを確認し、合衆国国務相の政策立案過程の議論を検討した。ルーズヴェルトの基本的理念は、枢軸国の侵略性の温床を破壊し世界を自由主義と民主主義の福音で改造するために、「言論と表現の自由」、「自分自身の方法で神を崇拜する自由」、「欠乏からの自由」、「恐怖からの自由」という4つの自由を実現することであり、そのために独裁的政治形態とそれを鼓舞する哲学、教育の構造的解体と根絶が目標とされた。また、天皇制は軍国主義や超国家思想と分離して無害化することが構想され、そのような基本方針から政策が導き出された。重要な点は、「積極的介入による日本国内の政治的経済的文化的改革」が目指され、そのためにアメリカの政治制度の根幹をなす「三権分立」とその基礎にある「デモクラシー」が変革の理念とされたことである。「信教の自由」と天皇制の改革は戦後世界の「公式の世界」の形成原理となっ

たが、ルーズヴェルトの演説でくり返し表明されたように、4つの自由を実現するためにはキリスト教という進歩的に進化した宗教による個人主義的、自由主義的、民主主義的文化土壌が必要であるという前提が暗黙の内に合意されていた。

「第二章 対日政策における信教の自由」では、そのような合衆国内での政策と議論が、実際の占領軍の政策の中でどのように表現されたか、何が実現されなかったか、を問題にした。議論の焦点は、GHQの「神道指令」に結実する「国家神道の廃止」、すなわち、国家と宗教と天皇制の結合を徹底的に解体するという考えにある。この分離は、それまでの国体を解体し、国家と「野蛮で非近代的な宗教」とを分離しただけでなく、個人としての宗教は神道もこれを許し、国家を完全に世俗化し、近代的な非宗教的世俗主義国家を形成したということである。これは、日本の宗教界に極めて大きな影響を与えただけでなく、キリスト教世界による近代的自由主義的民主主義的世界の構想と合わない、徹底的な世俗化政策となったということを明らかにしている。

「第三章 占領世界と日本の宗教世界の変容」では、戦後の日本国憲法において起草された、そのような「信教の自由」、「聖教分離原則」は、宗教法人法と天皇の人間宣言によって強められ、近代的世俗国家をもたらししたが、しかし、世俗的な近代国家の支配統治の正当性の権威は曖昧まななに放置され、その空虚をうめるための、さまざまな過去への回帰が民衆の中から政治の表層に繰り返し生まれてきた。本章では、象徴天皇への崇拜運動、靖国国歌護持の願望、第二部で取り上げられる民衆宗教における政治活動も、近代の「国民国家への忠誠」や世俗的ナショナリズムと同様、なんらかの宗教的次元を抱えていることの証明であることを論じている。

「第二部 戦後の民衆宗教運動と政治参加」、「第四章 戦後日本における新宗教の参加政治」では、戦後宗教の一大特徴を、多くの新宗教の誕生とそれらの政治参加に見る。そのような現象は、戦後の抑圧の強い状況では見られなかったことであり、同時に戦後の宗教の自由原則のもとでの民衆の自由創造的な自己表現が可能となった状況を示す。戦後日本には、四つのタイプの新宗教の政治参加が見られた。独立して独自の政党を結成して政界に参画しようとした創価学会、戦後改革を是認する立場から自民党のリベラル派と結んで間接的政界進出をはかる新宗連系教団、戦後改革をさほど認めず、自主憲法制定・靖国国家護持賛成・天皇復権などを唱える生長の家などの右派グループ、さらには、教団としての政治参加を基本的に否定する金光教、天理教グループである。いずれのグループも、戦前からの伝統を含みながらも、敗戦と戦後の占領軍による改革に深く根ざしている。また、それらの運動は日本の近代社会の特殊な構造、すなわち政治から独立した大きな自発的組織が民間に存在しなかったということと関係している。新宗教は、個人と国家を媒介する社会的機能を果たした。戦後日本社会が抱えている多元的な世界は、「聖なる中心」を立て「方向付け」をもつことが困難な世界であるが、新宗教のグループは、「公式の宗教的世界」とは異なった聖なる中心をもっている。

「第五章 宗教団体による政治参加—創価学会・公明党を事例として」では、これらの諸説を裏付けるための事例として創価学会公明党の政治参加の軌跡と形態を検討し政治参加の動機を考察している。周縁的な弱者を政治にかかわらせヒューマニスティックな個人主義にたつて、理想的な世界を目指した創価学会であったが、しかし、政治とのかかわりの中で宗教がその当初の理想や性質を変えてきている。政治が強制的権力の執行であり、宗教が人間の究極的な実在への自己投企であるとすれば、両者は相矛盾し、政治への過度のかかわりは宗教にとって危険を孕むと分析している。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、政治と宗教、国家と宗教の問題を、戦後の占領軍の宗教改革と戦後の新宗教の政治参加という事例から吟味しようとするものである。従来の法学や政治学や社会学のアプローチに換えて、宗教社会学を含む宗教学の立場から統合的にアプローチする意欲的で新しい研究である。戦勝国側からして、キリスト教主義的自由主義民主主義を押し進めて、近代的な民主主義国家を創ろうとした企ては、政策の実現過程で「信教の自由」と「政

教分離」の原則の徹底的適用によって、世俗的国家の誕生をもたらし、「聖なる天蓋」を欠く、その意味で、宗教的次元を含まない政治的世界をもたらした。多元的で、重層的な戦後日本社会は、様々の実験を民衆宗教に許しているが、全体として「聖なる中心」を立てにくい、方向付けが困難な世界をもたらした。この問題を宗教現象学的な宗教社会学によって立論し、アメリカの国務省の歴史的資料や占領軍のデータを綿密に読み、戦後の新宗教の政治や社会への参加を丹念に調べて考察した、好論文である。資料もアプローチも新しく、手堅い議論である。

しかし、問題がないわけではない。方法論において、フッサールで宗教現象学と現象学的社会学とを結び付けようとしているが、エリアーデの宗教現象学はフッサールの西洋中心主義的な地平を乗り越えて行く。ワッハは宗教現象学よりもっと広い解釈学の基盤にたっている。西洋の占領政策と土着の宗教的世界のギャップを「ずれ」として問題にしようとするとき、西洋の社会科学的アプローチを克服しなければならない。また、創価学会に関しては、当初、疎外された民衆を政治に参画させ、社会性を与えようとしたとしても、今や、政治のキャスティング・ボードを握るところまで来ていること、つまり、「ずれ」を無化しかかっていることをどう解釈するかという問題が残る。また、日本にのみ限定せず、世界各地の政治と宗教、近代国家と宗教を比較することが重要である。今後の展開が期待される。

以上のような問題があるとは言え、本論文は膨大な歴史的資料を駆使し、占領軍の政策と被占領国家社会の宗教的世界との間のギャップに新しい宗教学のパースペクティヴから取り組んだ手堅い論文である。その資料には、新しいものが多く含まれる。学界への貢献としても大きなものがあり、学位論文として十分に価値あるものと認められる。

よって、著者は博士（文学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。